

中心商業地とまちづくり

経済学部
経済学科
教授

加藤 要一



研究シーズの紹介

イオン、ゆめタウンなどの大型ショッピングセンターによって、多くの地域型商店街は打撃をうけ、シャッター通り化している。その中にあって、様々な努力によって、生き残らないし活性化している商店街がある。例えば、鹿児島市宇宿商店街、佐世保市三ヶ町四ヶ町商店街である。本研究では、九州内の商店街あるいは地域において、活性化に成功している例を取り

上げ、現状の把握とその成功のポイントを析出・整理し、人口減少時代・コロナ後の地域づくり・活性化の方法について探っていきたい。



地域活性化

- まちの回遊性が重要です。
- 大型SCにない魅力をつくることが生き残りの鍵です。



宮崎駅周辺と、中心商業地橋通りを結ぶ「グルッピーバス」1回 ¥100、回遊性向上に寄与しています。↑

延岡駅ビルでは、あえて商業施設は入れませんでした。それは、イオンとの競争を避けたからです。↓



鹿児島市の宇宿商店街河合商店街組合理事長を中心にイベントなどの取組をおこない近隣型商店街として活性化しています。↑

期待される活用シーン

- 商店街の活性化はどうしたらよいだろうか？



回遊性向上
立ち寄り店舗数の増加
大型SCとの差別化



- 地域づくりのポイントは？



人材、コンセプト、財源



その他の研究テーマ

・駅ビル、天神ビックバンに関する研究